

福岡市の TSUTAYA 問題について拡散用メール文章を作りました。

福岡市及び縁のある方にお知らせするため、ご活用頂ければ幸いです。

-----ここから-----

件名

寄付なんて只の建前－福岡市のミニ図書館事業

本文

福岡市は廃棄寸前の本を公民館（20館）に入れるため60万円の税金を TSUTAYA（ツタヤ）に払おうとしています。

来年度からは公民館数を増やし、将来的には数百万円の税金を廃棄寸前の本の為に TSUTAYA に支払う計画です。

更に、住民からの寄付である古本を集める為の回収ボックスを、税金を使って TSUTAYA の為に作ります。

---西日本新聞より引用---

＝2014/02/08 付 西日本新聞朝刊＝ 売れ残り本6千冊を公民館へ寄付 古書業者が福岡市と連携 [福岡県] 公民館に 寄付してもらうことにした。 初年度は中央区など20カ所の図書館に各 300冊を配置。その後も順次、拡大し全公民館に完備したい考えで、初年度は 事業者が公民館に本を配送する運賃として、数百万円を予算計上する予定。

---引用おわり---

これは福岡市が進める、公民館に図書館をという“ミニ図書館事業”のことです。2/8の記事を見て、寄付と言いながら数百万円かかるとはおかしいという市民の 声がいくつかが上がったようです。

本年度の正確な予算は、公民館20カ所に対し、本棚等を購入するための印刷消耗品費が70万円、本の配送等で必要な委託料が60万円です。

寄付と言いながら“委託料60万円”が発生しています。福岡市内全館約150館に広がれば、正に数百万円の予算が必要です。

印刷消耗品費の70万円には TSUTAYA のための古本ボックス設置予算も含まれます。

古本ボックスに入れた本は TSUTAYA が回収し、等価の本を提供するという  
ことです。

また、本を配架する（本棚に並べる）のは TSUTAYA 側が行うので公民館側に  
負担はかからない予定だそうです。

公民館は地域住民の物なのに、事業者が入り込んで「この地域にふさわしい  
本を廃棄寸前の本から選んで並べてあげたよ」と言われて、貴方は納得出来ま  
すか？

地域の皆さんに読んでもらいたいと思って寄付した本が、TSUTAYA の判断で  
別の本に代えられる事に疑問は持ちませんか？

廃棄寸前の本を税金で買い「公民館にミニ図書館が出来て嬉しいでしょ！」  
と言われて、貴方は喜べますか？

私は、もの凄くバカにされているようで腹が立ちます。

また、税金の使い方がおかしいと思います。

同じ様に感じて、何か行動をおこしたい方は [市政への提案]  
<https://ssl.city.fukuoka.lg.jp/shiminnohoe/message.php> に投稿するか、  
身近な公民館に出かけて主事さんや館長さんと話してみてください。

この事業、本年度は希望する公民館だけに実施されるものです。公民館側  
で「不要です」とキッパリ断る事が出来ます。

ただ、実績が出来てしまえば、将来的に断る事が出来るかどうかは分からな  
いのです。

\* 事業者が TSUTAYA であることは 2/14 市長会見で発表される（3 段落目の  
下から 9 行目）

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/mayor/interviews/h260214.html> …

〈このメールは自由に拡散してもらって構いません。〉

-----ここまで-----

<市長会見の抜粋>

市長：「それから、ミニ図書館。これは、もうちょっと先日報道されたので、もうお分かりかと思うんですけども、これに関しては、ちょうど TSUTAYA さんがですね、これが回収される、回収になる本がですね、集める拠点が実は福岡市にあるんですね。全国の回収の拠点が。で、その本というのは、もう廃棄されるわけですけど、その中で図書館にふさわしい本というもの、置くのにふさわしい本というものをピックアップして、そしてそれを地域の公民館にですね、寄贈していくというような事業です。で、これによって、要するに公民館というところが、本当に市民にとっていろんな目的があって、それをきっかけに、例えば新しい図書も増えていけば、公民館に行って、じゃあ本を借りてみようかと、もうずっと同じような本しかないというのではなくてですね、でこういった本を活用して、させていただくことによって、ラインナップが充実をしてくと。またそれを目的に来る方もいらっしゃる、そうした中で人と人が出会って、顔見知りになる、そうしたところから、やはり地域の絆というものは生まれていきますので、こうした取り組みもするということですね。」